



⑤非審判的態度の原則とは？



A. バイステックの7原則⑤、ですね。

人と関わる援助者の行動規範として有名なものに「バイステックの7原則」があり、今回はその5つめ「非審判的態度の原則」です。

自分の価値判断だけで子どもや保護者の行動の善悪を決めつけない、という考え方です。その子どもの、ありのままの感情を受け入れつつも、一方的な非難や犯人を捜すようなことをしないのです。なぜかという、人は基本的に最初から自分を否定するものを信用することがないから、です。

ここで大切なことは、[支援する人はあくまで補佐である](#)、ということ。支援・援助することが役割のすべてなので「支援する人は善悪を判じない」のです。子どもをジャッジするのではなく、自分自身で問題を解決するお手伝いをするこそ、大切なことなのです。

子ども自身や保護者が抱えている問題は自分自身が解決しなければいけないものです。そのときに必要な善悪の判断も子ども自身が行わなければなりません。そこで、子どもの気持ちに寄り添いながら、客観的な状況把握をして問題解決のお手伝いをしていきます。

もし他者に危害を加えるかもしれないような行動であったとしても、その行動だけを取り出して咎めるのはいけませんね。その行動をしてしまった背景には何があるのか、どのような気持ちでそうなったのかを知ろうとするべきです。命令したり指導したりすることをまずは考えがちですがそうではなく、子どもがいま居る状況を丁寧に分析して冷静に伝えることが必要なのです。

子どもの発言であったり考え方の癖などを見極めながらの作業になります。行動そのものに対して善悪を付けるのではなく、広い視野で見る。そのうえで、子どもが自分で解決していけるように最低限の助言をする、ということを意識する必要があります。

いろいろな角度から客観的に問題となるものを見ながら、多面的な捉え方が必要になってきます。
変なバイアスがかかった状態で物事を見てはいけないし、俯瞰した公平な視点が必要ですね。
普通ならこうする、というステレオタイプのかたまりの考え方になっていないか、という反省も必要になってきます。

支援するものが善悪の判断をするのではなく、子どもが自分自身で問題を解決していけるように促す。
そのために声掛けやフォローをしたり、子どもを取り巻く環境を分析していく。
このようにして、問題行動を解決していくために必要な手立てを考えていくのですね。

《MENU》

《④受容の原則とは？》

《⑤自己決定の原則とは？》

2023-07-03 掲載